

目次  
日常のかたち——美学・建築・文学・食

序——日常のディアスポラ

【第一部】

美学

日常の美学——世界の創出

齋藤百合子 17

キャンプ・ライフのモダニズム

——ミネ・オークボ『市民13660号』

アン・マクナイト  
ノミンエルデネ・エンヒバイヤル  
41

共に「住まうこと」——西内健善と日常の美的想像力

ミリアム・サス  
早川唯訳 62

足の跡、手の跡、息の跡

——リチャード・ロングの彫刻における消散

山口恵里子 88

【第二部】

建築・家政

建築のファイナリティと適応

半田るみ子 133

『ポイントンの蒐集品』に表象された

美の民主化をめぐる攻防

三宅敦子

153

ヴィクトリア朝イギリスのドローイングルームと

スピリチュアリズム——ミドルクラス女性の交霊会

長谷部寿女士

174

〈ハウス〉のパラダイムシフト

——空襲と原爆の時代のドラマ

竹谷悦子

198

ノスタルジア

——ジョン・チーヴァー「泳ぐ人」における家庭と不在の詩学

宮本陽一郎

217

【第三部】

文 学

共有する日常——女工エレン・ジョンストンの詩と読者

中田元子

239

日常のサウンドスケープ

——ベケットのラジオ劇『すべて倒れんとする者』

対馬美千子

260

ピアノのお稽古とその影響力

——作家になったアメリカの少女たち

馬籠清子

279

日常の表現の渴望と国民共生意識の醸成

青柳悦子

—アルジェリアの日本式マンガ創作

【第四部】 食

「倫理的な食」の陥穽を越えて

五十嵐泰正

NETFLIX北朝鮮漂流記『愛の不時着』における

イ・ヒャンジン

「ニユートロ」な男性像——料理する人民軍と共に

上田由至訳

ヒースタリフの飢え——『嵐が丘』の日本語訳にみる食

ジュデイス・パスコー

ノミンエルデネ・エンヒバイヤル訳

あとがき

執筆者・訳者紹介